

宮古老子

宮

13
638
1



門八 13
 號 638
 表 1

此觀學未



老子序

御堂

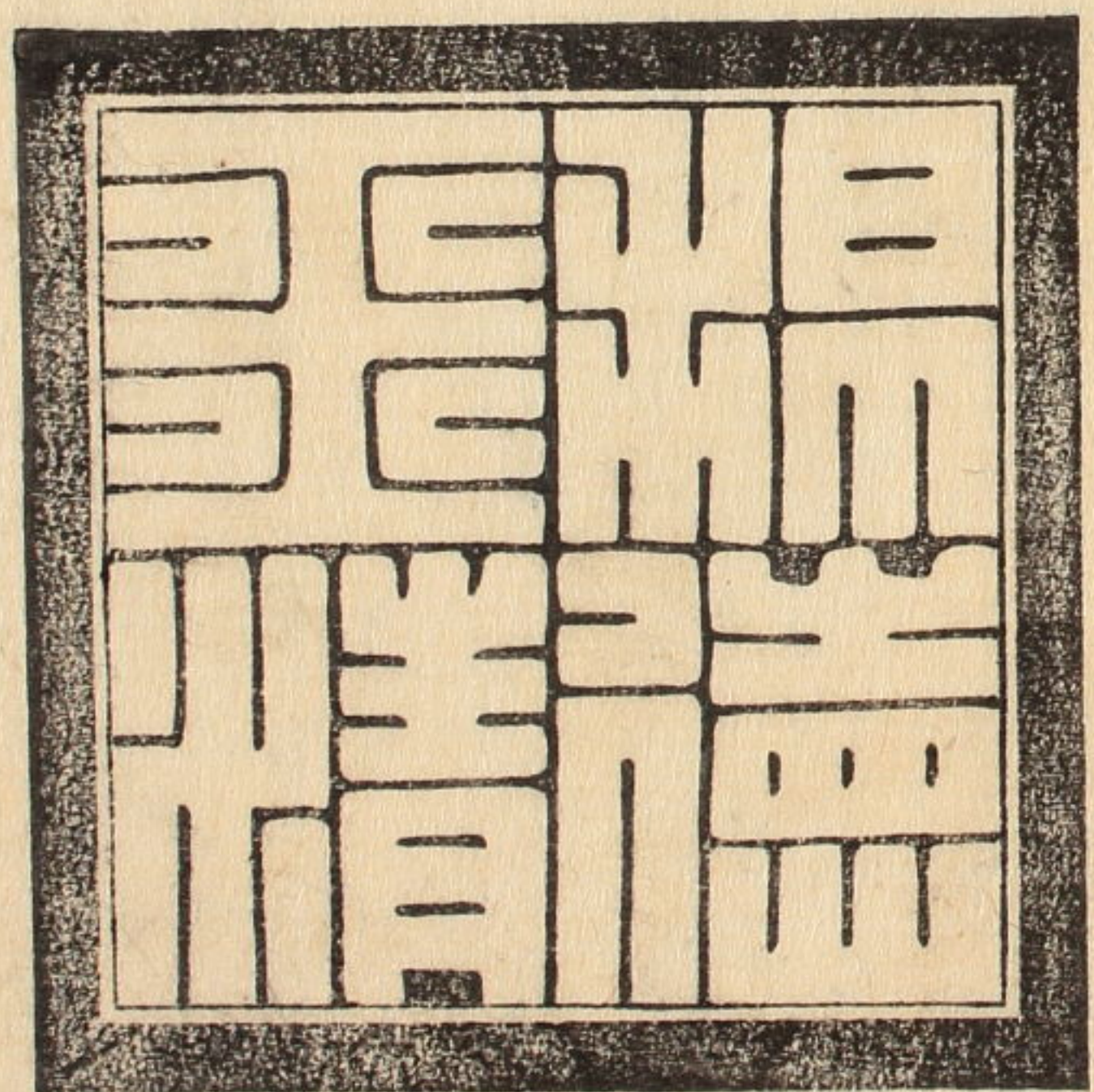
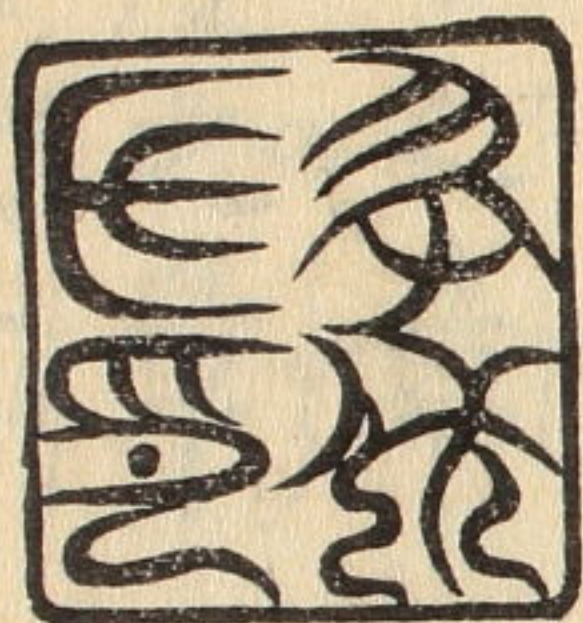
身以好。韓。歸。梨。春。子。代。
 原。法。子。百。家。以。通。我。觀。
 厚。古。中。之。學。士。多。思。後。
 為。遠。或。者。難。在。何。常。之。

耶老字序

道難字大不入矣。此箱
也。為人。語醇心曠。著戀
日久。情字急急。辱我密
吐。竊情實。而不遜。就他
的耳。厚友。時。中。福。有

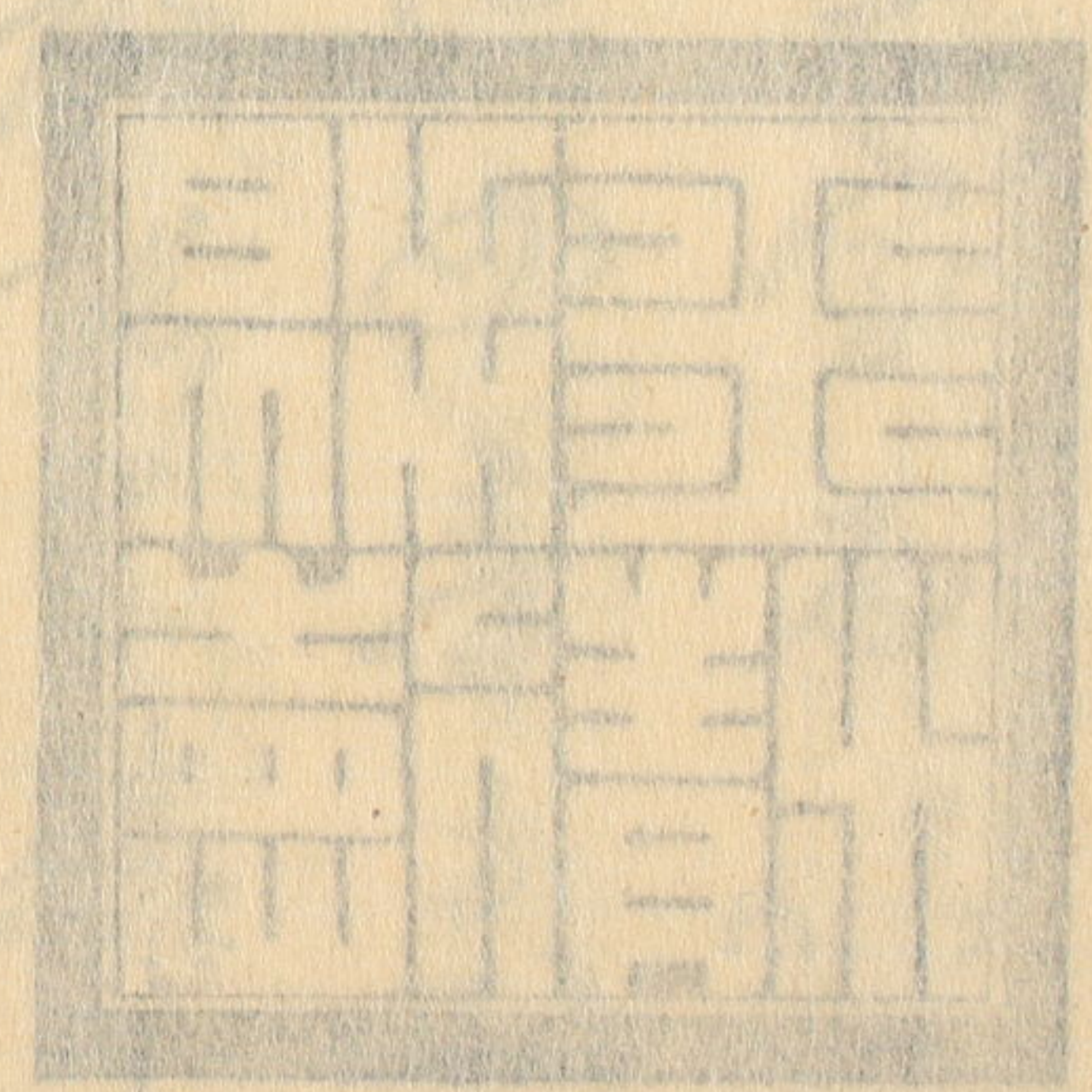
年。而。阮。曉。了。一。分。家。隆
文。辭。豪。尚。不。思。撤。也。去
言。於。乃。華。之。先。生。居。其
下。第。一。的。大。字。以。而。外。道
也。時。子。似。然。肉。可。謂。得

為其之之。如。如。此。又。答。
 於。或。子。之。三。字。百。以。上。
 於。梓。尔。竟。正。の。幸。未。五。
 月。中。旬。东。都。張。朱。鑄。書。
 於。孤。松。皴。



都老子卷之一目錄

都鄙花見之章
 管神梅花之章
 東海潮干之章
 雞祭調度之章
 杜鵑好惡之章
 因名惑實之章



因以慈濟之障
其德以慈濟之障
其德以慈濟之障
其德以慈濟之障
其德以慈濟之障
其德以慈濟之障
其德以慈濟之障
其德以慈濟之障

都老子卷之一目錄

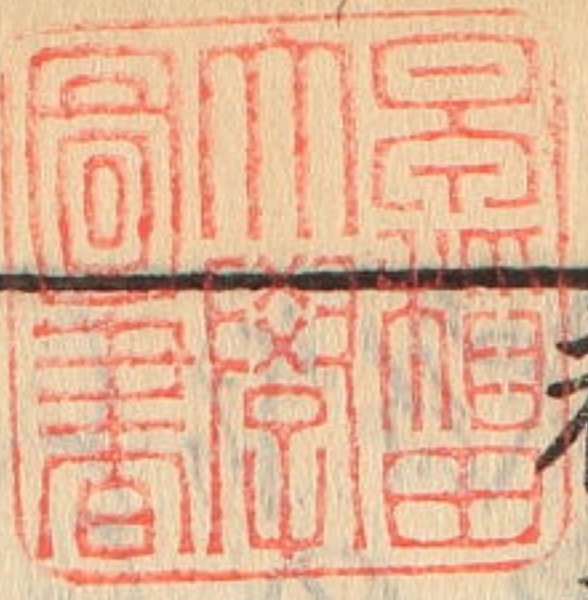
明治四十一年四月廿四日
藤野漸氏寄贈

都老子卷之一

黎春先生銓評 東都

名張湖鏡 編著

藤野潔氏遺愛之記



都鄙花見之章

を其の悦はる大道といふや。いふは其の悦はるの由也。今も
をむし、大乃今人乃。都鄙人道行て、斤田舎ら
大乃好べし。都鄙不生きて、あまつ多て、よき事此
みさん。心を悦び、あまひる。あまひる。あまひる。あまひる。
につきて、心を悦び、あまひる。あまひる。あまひる。あまひる。
さきばん。あまひる。あまひる。あまひる。あまひる。あまひる。

かよれたあなまをハ又らめてゐかたささじいふふまを
志げふたさゆりか乃大道あもふむゆらん飛客
言波ハ妙りあさびん中になと古田金のお持
と字づく心神流く病もある方好く天母とあそ
大なるあふふりささるるまじいばいばあの人
乃花んともくも賤をふとなくあるとあふふん
能くさ衣を服し。まらふさく書たものなすく
とこび持来甲。後日花の下めて香くらじ。と
竹の好び。とまら下はくさる聲小雑弦。
式ら多まなごころものよ云ちじ。のまも樂

める不、固さ地と。ささど大なるあふの眼くらま
まの樂と、ふなう。ささむんは樂と氣運たらか
んぞほくもはと山は揚ふからあつゆるとあふ
ふまと書したる。ふんぞあふらふとあふ
まに。あふひら駕小書。あふさけいであふあ
し。一日暗小心氣とつ。さあるとあふらら
いさささささびきたる。はあつ。さも亦あを見
あもる余情をいよあて。花んの中なら。あ
所は只のども。んは天理自始のまのにはくすに
にても倦まからふ馬亦にあふ。ささあふ事



必せり。如く我樂乃。乃不を養ゆる事。ハ均せば。三
 に。もやあり。をを養ゆるなり。如く成り。養ふ
 色見。いつまにせよ。心算と。養ふ。色中。と。惜ざる
 たり。又田舎人の。たさを。むる。故人。の。こと。く。衣
 食。事。と。さ。ら。り。と。かく。家。お。裁。り。ひ。わ
 富。の。ゆ。り。よう。へ。垂。る。う。と。女。の。枕。の。た。を。て
 心。と。樂。海。と。ひ。る。ひ。是。を。海。と。る。を。為。自。然
 此。樂。と。り。へ。愈。一

菅神梅花之章

我隣家。又天神と。在。小安置。一。菅。高。梅。と。子

樹と。種。く。深。あ。り。て。樂。め。る。人。の。り。た。の。法。に。持。り
 自。ら。座。を。掃。き。水。打。か。と。て。道。遠。を。ま。を。保
 じ。や。と。こ。ひ。ひ。り。の。杉。田。舎。人。を。人。事。ら。り。と。是
 故。ら。ら。ひ。梅。乃。主。の。方。一。り。の。か。ひ。こ。ひ。る。ま。ま
 色。う。ま。り。あ。ふ。み。つ。う。あ。向。ひ。ま。け。た。唯。今。人。を
 色。う。ま。り。あ。ふ。み。つ。う。あ。向。ひ。ま。け。た。唯。今。人。を
 花。も。豊。さ。い。は。ら。ら。あ。ん。後。は。あ。い。う。の。は。い。と。み
 色。う。ま。り。あ。ふ。み。つ。う。あ。向。ひ。ま。け。た。唯。今。人。を
 喉。神。一。以。ち。我。家。居。ま。を。青。た。め。る。も。能。く。ん
 とう。か。一。飛。立。を。ら。系。り。ん。や。な。と。う。世

塵よさらさ。一日くとしら分々に延びし。ぬきあ
 疎小天神此条。終めてもいひむ。一入花も白ひきむ
 二面白く依り入の法や。統家追白ひたこそと讀
 海ひもるもことさ。らにしく。色香たかむ事。後
 本よ。播き。花に。これ。心入までも。口前に。名。さ。く。す
 ち。と。さ。る。事。そ。う。と。す。め。ん。い。ま。人。神。の。介。さ
 ぐ。ん。ぬ。て。つ。り。も。る。う。一。人。の。つ。ま。い。や。さ。る。内。さ。り。て
 も。實。ハ。三。未。に。生。る。一。と。云。り。を。ば。ま。人。の。さ。と。久
 疎。が。不。具。成。終。ふ。も。ら。ら。ば。我。も。あ。く。と。お。つ
 ろ。ひ。ま。り。ま。い。が。ん。が。さ。り。一。ふ。と。と。後。う。と。致。ん。が。が

句。少。色。派。中。さ。ん。や。四。流。と。成。り。出。し。下。ま。よ。こ。て。書
 て。ま。り。お。ふ。を。り。も。ば。ま。い。あ。あ。さ。み。と。ち。り。志。く
 や。ん。津。々。一。れ。梅。の。む。さ。こ。て。く。面。白。い。い。け。く。と。西
 一。中。毎。さ。お。ち。く。壬。午。の。梅。は。白。く。ふ。て。未。深。湯
 一。山。梅。も。ら。ら。ば。も。ら。ら。梅。さ。ら。て。す。い。ふ。ふ。と。の。は。り。ふ
 腸。つ。ら。ま。り。ら。で。い。る。ふ。い。る。天。の。白。く。ふ。あ。ら。ふ。な。く
 い。ら。も。も。按。じ。足。や。べ。一。と。て。後。梅。ら。あ。ら。な。の
 こ。毎。さ。と。書。派。ら。ま。り。一。ふ。さ。ん。が。や。ま。は。機
 一。ま。ら。ら。ら。よ。と。悦。び。た。る。ふ。ま。も。も。ま。ま。と。ま。ん。の。三。年
 一。梅。小。さ。梅。ら。暗。さ。ら。さ。た。ふ。や。彼。つ。ま。ふ。む。ひ

逆のよふ才三なるべくやとさし身てなげきば
 かの田舎人よき自身かごころ人なる代糸
 こころの知らたきとも連能ふ才三といふありて
 ちかぬ金もばなら。そ時主我も若とこしてふりて
 とあふ。是と志がにいでと場をたさるぬ。梅と田舎
 人のこもかまざる。まのぢく成りも又さうれから
 志きゆもあらるよと。せん生ふ味し。色は先生
 務していき。先そちの梅とほり。疎ふ後句逆
 化意して。まれんと愧ぢあふる。今日人情の誠
 にき。礼ふとあふ。一。徳もとも。自徳を為す。

かるるをく。まれ機垣と車んが為をく。なを何
 ながし。後句逆接。かせた。人情とはいやなゆ
 いうもらそや。主人乃版直とそち不對して。れこと
 いもあらず。花とてやとて何ぞ。実とらり。利徳ふ
 せざる。とあ。せんが為の版直あり。そちれんと。若とす
 たる若。えま。人より。版直あり。まも。花と。徳む。に。く。ハ
 なく。花。不。迷。ふ。を。い。ふ。もの。なら。か。梅。不。花。ふ。つ。い。恨。い
 ら。版。直。せ。む。い。い。と。行。く。ん。身。と。若。し。夫。徳。を。換。せ
 ん。こと。親。む。ま。ま。あ。行。も。な。む。む。と。て。花。不。い。い。ま。な
 れ。ぬ。ま。む。ち。る。ま。う。ま。う。め。く。ら。ら。り。清。く。も

けんがらび三人の内田舎人よこきん入道ふとかな
 ひゆららえら田舎人をきく梅枕橋のたつと
 かずさんばとて初て人の家もあつてとて庭に咲く
 花ともなる信はあかく解かぬもはかんにあかむ
 ねん中て實のせらるるを沙汰せら田舎にては梅の
 実熟すきと家にもつひのまらぬまは代わ
 て世後たときけあすきば花らるるこひり十信
 せらさきと詩経も呂南陳風り梅の實との
 こ賞して花のことかいた後世たと賞すたこ
 こららら思

東海潮干之章

三月三日潮干こころ人々海邊へ遊ゆりしよ
 我をよにいざあらん事らて兄にたふさすき
 海づく波をる海乃がふらうこれごふ七八が程
 と平地となり晴や成氣涼小氣と書ふ不と古人の
 京物の一川と定りもげらごう。先もあ打まきり
 蛤蛸やうれもの拾ふらうぬたごひかく面白し
 人々遠小潮の隈も不遠所りまらけるを問もきと
 心もあこいふ真と踏てたるあつと。我もするびゆる事
 ならいざとよゆてらんて。潮の戻らうもはらう



水を流すく。多。河。り。こ。ら。や。わ。ら。ら。来。じ。き。ら。も。ゆ。ぎ。さ。
 い。う。ぐ。程。あ。り。ら。る。ふ。ぬ。と。む。ら。め。と。ん。あ。り。ら。る。が。悪。く
 す。う。ら。む。ら。む。と。あ。む。ふ。一。歩。踏。行。を。せ。む。ば。か。ぬ。り。て。ひ
 ら。ぬ。ふ。ら。む。の。ま。さ。す。な。ら。り。の。程。ぶ。こ。と。わ。り。と。ま。す。ま。あ。さ
 海。一。ま。中。に。お。と。こ。ひ。一。歩。か。ど。入。り。ゆ。ら。め。の。皆。と
 り。お。と。ぬ。と。有。ら。ん。と。糸。は。せ。ん。あ。る。い。ひ。ひ。あ。み
 く。と。つ。あ。ま。り。の。こ。い。ふ。と。う。ま。い。あ。ら。あ。ら。き。見。ら。り
 う。れ。う。て。あ。ら。ら。る。ふ。程。具。あ。れ。は。あ。の。う。た。の。う。た
 衣。身。に。痛。ま。け。ま。た。え。ら。り。我。せ。く。ま。に。見。が。ら
 と。ひ。ら。め。と。ん。様。あ。る。誤。り。ま。さ。あ。ら。ぬ。祈。せ。又。こ。ま

其。乃。ゆ。わ。と。あ。ん。と。あ。る。さ。け。お。ふ。又。あ。ら。う。く。程。有
 見。お。ら。り。多。り。先。の。に。は。ら。り。一。わ。り。と。し。ま。ら。ん。い。ま。も
 ひと。く。お。こ。し。け。れ。ぬ。隨。分。を。ら。い。ふ。見。せ。お。ら。る。ま。は。は
 善。し。や。情。り。も。ん。と。う。う。こ。さ。る。人。に。飛。び。来。ぬ。と。さ。く
 沙。々。と。お。ひ。向。ふ。の。方。と。も。れ。ん。の。む。ら。め。と。あ。ら。く
 と。水。中。に。入。り。な。ら。ぬ。後。を。後。へ。ゆ。り。ゆ。り。と。あ。ら。い。れ。ぬ
 と。水。中。に。入。り。な。ら。ぬ。後。を。後。へ。ゆ。り。ゆ。り。と。あ。ら。い。れ。ぬ
 三。尺。も。あ。ら。り。て。た。な。へ。く。様。な。く。も。あ。ら。ぬ。か。わ。や
 ま。ま。き。と。あ。ら。ら。れ。う。く。人。こ。も。あ。ら。う。い。て。今。ぞ。船。の。は
 来。ふ。こ。と。各。々。思。あ。ら。ぬ。我。も。是。想。を。く。痛。足。と
 か。か。ら。ぬ。や。う。く。あ。ら。ぬ。や。う。か。ら。ぬ。う。つ。日。に。無。量。の。憂。ひ

と有りけるよと悔ひのまじき先生やうて又又言ふ所の
 らば。之を奉りてに誦しぬきをそそぎなり。そををば
 して。聖賢の教を老子の大道を求む。修む。小せば
 寂上乃術をえん。凡初学の人は。学問とて。すまふ
 ともや。ふ。聖知を修らうともや。や。我生得乃介
 小情をち。日夜書物に悔あり。人あも問をうして
 も未ん。の。解る。内なき。ぞ。わ。悟ら。然と難。我精
 氣乃介と。勤めぬま。倦。退屈して。学問よ。あこ
 ち。偶。聖意を悟らぬ。ぐ。時。も。初の。き。び。一。さ
 学問有り。らて。心と。ち。あ。そ。く。か。せる。也。悟。ら。ぬ。聖

ま。と。つ。ひ。か。あ。く。づ。て。終。る。事。多。く。汝。見。て。を
 ら。ち。と。見。踏。後。ト。怪。我。あ。ら。ん。急。り。聖。賢。の。拘。束
 悟。ら。ぬ。ん。と。め。ら。む。せ。う。に。学。問。し。て。つ。ま。ま。て。病
 死。と。わ。ら。一。生。聖。賢。の。道。を。知。く。は。終。る。程。ひ。を。ら
 ぬ。後。小。教。の。ゆ。め。を。見。ん。だ。も。取。近。せ。い。ば。の
 程。を。む。さ。乃。た。之。程。を。ら。亦。不。育。ち。ち。小。児。は。若。も。な
 く。び。ひ。あ。と。亦。不。つ。も。も。も。ん。あ。ま。へ。海。邊
 乃。小。児。を。て。む。ら。ち。あ。む。こ。ご。と。あ。ら。ひ。け。い。と。す。程
 事。を。な。さ。り。の。り。ら。さ。ま。も。常。く。海。邊。で。育。ち。ぬ。を
 ば。自。然。と。あ。ら。る。り。人。小。は。さ。ら。り

雜祭調度之章

都鄙とひたふ雜祭いかにをて婦女にょにょ乃もて所ところをふりてす也
 產いかに名なをなと祭まつりをするなりとい神たうを皇すい產ひ靈のをいひ子
 少ちてち形かたちが三さん所ところ神かみをまば人ひと形かたちをまばさくく振ふる
 多おほくおほなり。むこかのここ中ちゆう軍ぐんしてむなをまをま
 有ある。いわ神かみ大おほ己み貴かのなをとカをとあてて天下てんかにある
 後のちの神かみ也なり。目めにありて醫い藥やく乃なり祖そ神かみなり。
 紀き伊い國こく名な草くさ部ぶ蚊ぶん田でんとすりて業わざ治ち大おほ神かみなり。
 於お是こゝなり。俗ぞく小せう女神にょじんとすりて誤あやまりて也なり。
 いひからいつひららり乃なり事ことにや實じつ神かみふもてい

ままええずず深ふかは物もの終つひ松まつ葉は子こかがぶぶ心こゝろをたすひと
 ががままばばををままるる久ひさく。近ちか年ねんにありて雜いかに配はい膳ぜんの調てう度ど
 事こととしのはいをとるく。今いま非ひとちらりとあるさとす
 ることとらあらりぬ。志こゝろをた食いん賤けん乃なり家いへ小せう。蛤かきを
 かかふふ飲いん食じきと盛もり供けいずるも又また多おほく。むむかれ調てう
 度どハハ大おほ業わざあらるがくく也なり。蛤かきをたすひものをままとす
 ややいいびびをを道みちりや也なり。むむががををむむとし乃なり名なをたすひの
 いいくく貴き豪ごうの家いえおおてて雜いかに振ふるびとかかくくハハ大おほ業わざ也なり
 也なり。むむががををむむとし乃なり名なをたすひの
 賤けんもも蛤かきをたすひ也なり。周しう禮らいふふとし山

川河方とありふらん。塵念をてとぬぐらねる
うの王と用也。ねりてら

杜鵑好画く章

と流し此慧能大師と子。新洲と子。而の影裏
中て一字と知ぬ人なら。影とあきか。不道不
に。あ人の金剛經とらるる。無住所住。生
甚んふ。文とすて。そのま。佛道と合點し。
黃梅山へ入。あ。祖弘。其の才子となら。さうく。来
踏込とほ。先。后。ら。あ。祖。と。思。を。知。り。て。法。を
さ。つ。も。教。も。ら。傳。來。乃。器。也。と。も。有。屬。け。家

とらん。經氏の教。解き。法。乃の教。て。く。と。至。極。の
大道。一。場。小。字。同。と。悟。く。執。る。法。に。て。も。あ。く
は。慧。能。の。こ。と。く。悟。さ。る。人。あ。ら。と。え。ら。我。も。慧。能
所。任。乃。法。と。合。點。し。て。思。ん。と。こ。ひ。の。母。何。と。や。ぬ
ら。ら。と。と。と。く。一。決。志。と。こ。ふ。ら。先。生。ふ。た。つ。は。あ
ま。バ。我。も。と。知。ら。ぬ。も。う。た。教。ゆ。に。く。も。何。ん。だ。を
一。可。書。て。こ。せ。れ。り。ら。よ。傳。ね。る。も。可。も。い。ら。こ。ん
な。う。き。ん。是。に。く。り。合。點。の。あ。ら。も。や。う。か。き。る
ま。ご。何。と。や。ら。聖。賢。の。法。乃。と。く。生。板。へ。釘。打。す
小。わ。か。し。せん。我。も。が。知。ら。ぬ。り。か。き。バ。も。分。り

こと一筆ねん。あつてもごも。発句ハ。俗語ハ。奥小ト。海ノ用
 ちりたれ。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 発句ハ。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 此ノ文字。海ノ。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 賞家乃。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 発句ハ。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 お意なり。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 志。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 して。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 相対。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。

あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 す。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 の。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 に。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 も。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 して。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 よう。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 ら。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 名。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。
 和。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。あつてもごも。

と。ふんまらひながらやどを養脱ふつゝの事もある
る。天下は食せりて今日を養ふなり。か
らひかひと海をりて海傍乃業といふ處に。唐
の杜鵑乃多と云まきりたり。乳のみ子を母もあ
く。父も啼く。何れも何れも涙人乃携向小のひく
泣きけよよおやうな妻あはる多とたとへて養元交
が雜纂三續といふ書に見くたり。その中には
好と云く。いこの不同何れり。蛇といふ虫は多く人
乃いざら守に。東松宗輔公蛇と好く飼ひ樂に
治ひたる。及世不蛇飼の大臣と云や。ける。是れ其の

お

固名惑實之章

かこつていふ事。杜若といふ文字と古くは書傳
えり。近き以文字さうんか。四かや。杜若々西去
乃香若は名きて。かこは。いふ。ふらつ。いふ。こ
子た。了。せ。日本のかこつて。成。て。り。そ。こ。を。族
多し。さら。と。い。ふ。こ。か。れ。る。不。同。な。ら。り。後。に
ま。も。目。本。に。て。も。二。名。二。物。一。名。な。る。地。方。多。て
ふ。も。か。こ。つ。て。杜。若。と。西。去。に。て。ハ。香。若。日。本。に
にて。は。家。不。花。咲。く。草。と。是。く。す。海。に。魚。と。さ。



せとふんげり。あつるべきや。我を愛す親人の百
 色久しく牙とをたたりち。業(さ)くこせ。こがさく人
 子(こ)ちをもちり。我能(わが)の福(ふく)ぞし。くは。偶(い)家(け)有(あ)り
 日(ひ)成(な)る。くは。男子(なんし)と。今(いま)は。傾(けい)城(じやう)三(さん)分(ぶん)を。探(たづ)ね。あ
 らし。あ。あ。と。男(おとこ)女(め)を。お。こ。ひ。志(し)あ。ふ。自(じ)然(ぜん)ら
 ね。ふ。あ。つ。れ。人(ひと)欲(ほ)る。く。され。ば。也(ま)林(りん)秘(ひ)抄(しやう)よ
 じ。法(ほ)法(ほ)の。中(な)に。ぬ。ま。を。入(い)れ。た。ま。ひ。あ。る。あ。て。こ。ひ
 ず。く。一(い)つ。身(み)を。ま。ら。ふ。も。や。ひ。し。も。何(なに)に。け。し。探(たづ)ね
 くら。き。人(ひと)を。好(この)む。も。自(じ)然(ぜん)に。人(ひと)情(じやう)を。り。又(また)法(ほ)法(ほ)

乃(すなは)ち。乃(すなは)ち。一(い)族(ぞく)も。ゆ。ら。さ。た。男(おとこ)女(め)と。恋(こ)ひ
 せ。て。ま。ま。こ。れ。も。事(こと)。自(じ)然(ぜん)に。乃(すなは)ち。ふ。も。む。ち。る。罪(つみ)
 人(ひと)あ。る。く。し。は。走(は)る。ぬ。色(いろ)れ。道(みち)。我(わが)も。あ。る。く。人(ひと)や。せ
 い。ん。ふ。い。あ。も。あ。る。く。む。ち。を。こ。い。も。恋(こ)ふ。ゆ。も。神(かみ)
 て。ん。こ。ん。時(とき)あ。る。く。ふ。海(うみ)も。き。こ。ら。く。一(い)つ。か。を。く
 こ。ん。乃(すなは)ち。け。と。け。く。恋(こ)の。あ。る。を。あ。る。ひ。余(あま)は。さ。さ
 せ。と。及(およ)び。か。ん。時(とき)や。り。く。た。び。ひ。の。し。を。あ。ま。ま。帰(かへ)と
 れ。り。世(よ)時(とき)ふ。も。楽(たの)み。た。こ。し。む。と。ん。へ。ら。禪(ぜん)云(い)ふ。く
 會(あ)い。ま。ま。は。家(け)業(ぎやう)の。外(が)に。團(だん)圓(えん)双(じやう)舌(じゆ)の。ま。ま。て
 じ。藝(ぎ)を。ら。と。わ。り。し。日(ひ)夜(や)ふ。ぬ。ら。ぬ。走(は)る。い。川(が)を

かく身をとりやまら。是照をくわ乃困暴双を生
 産こふして世と後を常と之彼意所小く持
 たり男女ハ是小等一かぐべし我れえ下ら好
 ちらんらんかく成るまきとも非同らん法海に
 やアるゑん法人のゆ一たら妻入り末久
 ちく業をり、元一ぐ。意海をて持する妻
 の末をげたるわ海をひら。まをを母之のわ
 今集れ意乃建軸をいあり。流をてちいとを
 此山の中に流るる野入のこ一や世の中。
 こいふをを入らをもくふてまこと一。意海

て夫婦小成りてのり末。極く一をと後
 悔とるる實情と延るるあちら。意こい。物自然
 其實情なま。けり末と久小さうゆらん乃ありてを
 だし。俗流も夫婦の相性なりとをあり
 さぬ中とつふ。名好く。いれ流し流るる移か
 ららひやぐ一

都老子才一終



